



コマンドラインインターフェイスの概要

この章は、次の項で構成されています。

- [コマンドラインインターフェイス \(CLI\) へのアクセス, on page 1](#)
- [コマンドラインインターフェイスの表記法, on page 2](#)
- [汎用 CLI コマンド, on page 5](#)
- [バッチ コマンド, on page 7](#)

コマンドラインインターフェイス (CLI) へのアクセス

コマンドラインインターフェイスには、SSH または Telnet のサービスがイーサネットに設定されている IP インターフェイスで SSH または Telnet 経由、またはシリアルポートで端末エミュレーションソフトウェアを使用してアクセスできます。工場出荷時のデフォルトでは、管理ポートに SSH および Telnet が設定されています。これらのサービスをディセーブルにするには、`interfaceconfig` コマンドを使用します。

CLI へのアクセスは、アプライアンスのセットアップ時に選択した管理接続方式によって異なります。工場出荷時のデフォルトユーザ名およびパスワードを次に示します。当初は、`admin` ユーザアカウントだけが CLI にアクセスできます。`admin` アカウントを介してコマンドラインインターフェイスに初回アクセスしたうえで、さまざまな許可レベルの他のユーザを追加できますシステムセットアップウィザードで、`admin` アカウントのパスワードを変更するように要求されます。`admin` アカウントのパスワードは、`passphrase` コマンドを使用して、任意の時点で直接再設定することもできます。

イーサネットを介して接続する場合は、工場出荷時のデフォルト IP アドレスの 192.168.42.42 を使用して SSH セッションまたは Telnet セッションを開始します。SSH は、ポート 22 を使用するように設定されています。Telnet は、ポート 23 を使用するように設定されています。下記のユーザ名とパスワードを入力します。

シリアル接続を介して接続する場合は、パーソナルコンピュータのシリアルケーブルが接続されている通信ポートを使用して端末セッションを開始します。詳細については、「セットアップおよび設置」の章を参照してください。下記のユーザー名とパスワードを入力します。

下記のユーザー名およびパスワードを入力してアプライアンスにログインします。

工場出荷時のデフォルトユーザ名とパスワード

- ユーザー名 : **admin**
- パスワード : **ironport**

次に例を示します。

```
login: admin
```

```
passphrase: ironport
```

コマンドラインインターフェイスの表記法

ここでは、AsyncOS CLI のルールおよび表記法について説明します。

コマンドプロンプト

最上位のコマンドプロンプトは、完全修飾ホスト名に続いて大なり (>) 記号とスペース1つで構成されます。次に例を示します。

```
mail3.example.com>
```

アプライアンスが中央集中型管理機能を使用したクラスタの一部として設定されている場合、CLI のプロンプトが現在のモードを示すように変更されます。次に例を示します。

```
(Cluster Americas) >
```

または

```
(Machine los_angeles.example.com)  
>
```

詳細については、ユーザーガイドの「中央集中型管理」を参照してください。

コマンドを実行すると、CLI によりユーザーの入力が要求されます。CLI がユーザーの入力を待機している場合は、コマンドプロンプトとして、角カッコ ([]) で囲まれたデフォルト入力値の後に大なり (>) 記号が表示されます。デフォルトの入力値がない場合、コマンドプロンプトのカッコ内は空です。

次に例を示します。

```
Please create a fully-qualified hostname for this Gateway  
(Ex: "mail3.example.com"):  
[]>  
mail3.example.com
```

デフォルト設定がある場合は、コマンドプロンプトのカッコ内にその設定が表示されます。次に例を示します。

```
Ethernet interface:  
1. Data 1  
2. Data 2  
3. Management  
[1]> 1
```

デフォルト設定が表示される場合に **Return** を押すと、デフォルト値を入力したことになります。

```
Ethernet interface:  
1. Data 1  
2. Data 2  
3. Management  
[1]> (type Return)
```

コマンドの構文

インタラクティブモードで動作している場合、CLIコマンド構文は単一のコマンドから構成されます。空白スペースを含まず、引数やパラメータもありません。次に例を示します。

```
mail3.example.com> systemsetup
```

選択リスト

入力できる複数の選択肢がある場合、コマンドによっては番号付きリストを使用します。プロンプトで選択する番号を入力します。

次に例を示します。

```
Log level:  
1. Error  
2. Warning  
3. Information  
4. Debug  
5. Trace  
[3]> 3
```

Yes/No クエリー

yesまたはnoのオプションがある場合、質問はデフォルト値（カッコ内表示）を付けて表示されます。**Y**、**N**、**Yes**、または**No**で返答できます。大文字と小文字の区別はありません。

次に例を示します。

```
Do you want to enable FTP on this interface? [Y]>  
n
```

サブコマンド

コマンドによっては、サブコマンドを使用する場合があります。サブコマンドには、NEW、EDIT、およびDELETEなどの命令があります。EDIT および DELETE の機能の場合、これらのコマンドは、システムですでに設定されているレコードのリストを提供します。

次に例を示します。

```
mail3.example.com> interfaceconfig  
Currently configured interfaces:  
1. Management (192.168.42.42/24: mail3.example.com)  
Choose the operation you want to perform:  
- NEW - Create a new interface.  
- EDIT - Modify an interface.  
- GROUPS - Define interface groups.  
- DELETE - Remove an interface.  
[ ]>
```

サブコマンド内からメインコマンドに戻るには、空のプロンプトでEnterまたはReturnを押します。

エスケープ

サブコマンド内では、いつでもCtrl+C キーボードショートカットを使用して、すぐに最上位のCLIに戻ることができます。

履歴

CLIは、セッション中に入力するすべてのコマンドの履歴を保持します。最近使用したコマンドの実行リストをスクロールするには、キーボードの↑および↓の矢印キーを使用するか、Ctrl+P キーとCtrl+N キーを組み合わせで使用します。

```
mail3.example.com> (type the Up arrow key)
```

```
mail3.example.com> interfaceconfig (type the Up arrow key)
```

```
mail3.example.com> topin (type the Down arrow key)
```

コマンドの補完

コマンドラインインターフェイスは、コマンドの補完をサポートします。あるコマンドの先頭数文字を入力して **Tab** キーを押すと、CLI によって一意のコマンドのストリングが補完されます。入力した文字が複数のコマンドに該当する場合、CLI はそのセットをさらに「絞り込み」ます。次に例を示します。

```
mail3.example.com> set (type the Tab key)
setgateway, sethostname, settime, settz
mail3.example.com> seth
(typing the Tab again completes the entry with sethostname)
```

CLI の履歴およびファイルの補完機能では、**Enter** または **Return** を押してコマンドを起動する必要があります。

設定の変更

電子メールの通常の動作を妨げることなく、設定を変更できます。

設定変更は、次の処理を行うまでは有効になりません。

Procedure

- ステップ 1** コマンドプロンプトで **commit** コマンドを発行します。
- ステップ 2** **commit** コマンドに必要な入力値を指定します。
- ステップ 3** CLI で **commit** 処理の確認を受け取ります。

What to do next

確定されていない設定に対する変更は記録されますが、**commit** コマンドが実行されるまでは有効になりません。



Note

一部のコマンドは **commit** コマンドを実行しなくても有効になります。変更を有効にする前に確定を行う必要があるコマンドの概要については、[CLI クイック リファレンス ガイド](#)を参照してください。

CLI セッションの終了、システムのシャットダウン、再起動、障害、または **clear** コマンドの発行により、確定されていない変更はクリアされます。

汎用 CLI コマンド

このセクションでは、変更の確定またはクリア、ヘルプへのアクセス、およびコマンドラインインターフェイスの終了に使用するコマンドについて説明します。

設定変更の確定

アプライアンスに対する設定変更の保存には、`commit` コマンドが重要です。設定変更の多くは、`commit` コマンドを入力するまで有効になりません（変更内容を有効にするために `commit` コマンドを使用する必要がないコマンドも少数あります）。`commit` コマンドは、`commit` コマンドまたは `clear` コマンドが最後に発行されてから行われた設定変更に応用されます。コメントとして最大255文字を使用できます。変更内容は、タイムスタンプと共に確認を受け取るまでは、確定されたものとして認められません。

`commit` コマンドの後のコメントの入力は任意です。

```
mail3.example.com> commit
Please enter some comments describing your changes:
[ ]> Changed "psinet" IP Interface to a different IP address
Do you want to save the current configuration for rollback? [Y]>
n
Changes committed: Fri May 23 11:42:12 2014 GMT
```



Note 変更を正常に確定するには、最上位のコマンドプロンプトになっている必要があります。コマンドライン階層の1つ上のレベルに移動するには、空のプロンプトで **Return** を押します。

設定変更のクリア

`clear` コマンドは、`commit` または `clear` コマンドが最後に実行された以降に設定に対して行われた変更をすべてクリアします。

```
mail3.example.com> clear
Are you sure you want to clear all changes since the last commit? [Y]>
y
Changes cleared: Mon Jan 01 12:00:01 2003
mail3.example.com>
```

コマンドラインインターフェイスセッションの終了

`quit` コマンドを実行すると、CLI アプリケーションからログアウトします。確定されていない設定変更はクリアされます。`quit` コマンドは電子メール操作には影響しません。ログアウトはログファイルに記録されます（`exit` の入力、`quit` の入力と同じです）。

```
mail3.example.com> quit
Configuration changes entered but not committed. Exiting will lose changes.
Type 'commit' at the command prompt to commit changes.
Are you sure you wish to exit? [N]> Y
```

コマンドラインインターフェイスでのヘルプの検索

`help` コマンドを実行すると、使用可能なすべての CLI コマンドが表示され、各コマンドの簡単な説明を参照できます。`help` コマンドは、コマンドプロンプトで `help` と入力するか、疑問符 (?) を 1 つ入力して実行できます。

```
mail3.example.com> help
```

バッチ コマンド

AsyncOS はバッチ コマンド形式をサポートしているため、一部の CLI コマンドを新しい単一行 CLI 形式で実行できます。この形式を使用すると、タスクの実行に必要な入力を削減でき、よく行う設定タスクを簡単に自動化できます。バッチ コマンドでは、SSH クライアントを使用してコマンドをリモートで実行することもできます。これにより、CLI コマンドのスク립トを作成し、それを一度に複数のアプライアンスで実行することも簡単にできます。

すべてのコマンドがバッチと同等ではありませんが、すべてのバッチ コマンドは、非バッチ コマンドとして実行できます。

バッチコマンドの構文は、使用するコマンドによって異なります。使用するコマンドの構文の詳細については、[コマンド：参考例](#)の該当する CLI の例を参照してください。

バッチ コマンド例

次の例では、送信者グループの REDLIST が作成されます。さらに、その REDLIST がポリシー THROTTLED に関連付けられ、送信者「possible_spammer.com」が送信者グループに追加されます。

このアクションを CLI で実行する場合：

```
example.com> listenerconfig

Currently configured listeners:

1. IncomingMail (on Management, 192.168.42.42/24) SMTP TCP Port 25 Public
2. OutgoingMail (on Data 2, 192.168.40.42/24) SMTP TCP Port 25 Private

Choose the operation you want to perform:
- NEW - Create a new listener.
- EDIT - Modify a listener.
- DELETE - Remove a listener.
- SETUP - Change global settings.

[ ]> edit

Enter the name or number of the listener you wish to edit.
[ ]> IncomingMail

Choose the operation you want to perform:
- NAME - Change the name of the listener.
```

- INTERFACE - Change the interface.
- LIMITS - Change the injection limits.
- SETUP - Configure general options.
- HOSTACCESS - Modify the Host Access Table.
- RCPTACCESS - Modify the Recipient Access Table.
- BOUNCECONFIG - Choose the bounce profile to use for messages injected on this listener.
- MASQUERADE - Configure the Domain Masquerading Table.
- DOMAINMAP - Configure domain mappings.

```
[ ]> HOSTACCESS
```

```
There are currently 4 policies defined.  
There are currently 5 sender groups.
```

```
Choose the operation you want to perform:
```

- NEW - Create a new entry.
- EDIT - Modify an entry.
- DELETE - Remove an entry.
- MOVE - Move an entry.
- DEFAULT - Set the defaults.
- PRINT - Display the table.
- IMPORT - Import a table from a file.
- EXPORT - Export the table to a file.
- CLEAR - Remove all entries.

```
[ ]> NEW
```

1. New Sender Group
2. New Policy

```
[1]> 1
```

```
Enter a name for this sender group. (optional)
```

```
[ ]> REDLIST
```

```
Enter the hosts to add. CIDR addresses such as 10.1.1.0/24 are allowed.  
IP address ranges such as 10.1.1.10-20 are allowed. IP subnets such as  
10.2.3. are allowed.
```

```
Hostnames such as crm.example.com are allowed.
```

```
Partial hostnames such as .example.com are allowed.
```

```
Ranges of SenderBase Reputation scores such as SBRS[7.5:10.0] are  
allowed.
```

```
SenderBase Network Owner IDs such as SBO:12345 are allowed.  
Remote blocked list queries such as dnslist[query.blocked list.example] are  
allowed.
```

```
Separate multiple hosts with commas
```

```
[ ]> possible_spammer.com
```

```
Select a behavior for this entry.
```

1. Accept
2. Relay
3. Reject
4. TCP Refuse
5. Continue
6. Policy: ACCEPTED


```
7. Policy: BLOCKED
8. Policy: THROTTLED
9. Policy: TRUSTED
```

```
[1]> 8
```

```
Enter a comment for this sender group.
```

```
[]>
```

```
There are currently 4 policies defined.
```

```
There are currently 6 sender groups.
```

同じアクションを CLI バッチ コマンドで実行する場合：

```
example.com> listenerconfig edit IncomingMail hostaccess new sendergroup
REDLIST possible_spammer.com Policy: "THROTTLED"
```

